善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

命がけの説法に遇い 涙が無駄にならぬ世界が開ける

九月は、敬老の日があり、非戦平和を願って営まれる追悼法要を前に、「老いと死」を考え、学ぶ季節です。

夏の真最中、蝉しぐれを聞きながら、一句浮かびました。

「春秋も夏さえ知らず蝉時雨」。これは曇鸞大師の「夏に鳴いているセミは春や秋があるとも知らないが、今鳴いているこの季節が夏であるということすら知らずに命終わっていく」という意味の言葉を念頭に詠んだお粗末な自作です。哀れな蝉の命を詠みつつ、この自分自身も命の長さが少々長いだけで「無量寿のいのち」の仏に生まれ変わって往く「いのちの目覚め」がなければ空しいのではないか、と思うのです。

だが近年、長寿社会になるにつれて、我々現代人は「死」を遠ざけて見ないことにしようとする傾向が強くなってきました。「死んだらおしまい」「生きてる内が花、生きてる間に精々楽しまなきゃ損、損」という現代文化に浸っている人間は、老病死に直面すると、途端に戸惑い、悲惨になります。地球上には三千万種類の生き物がいるそうですが、我々は不思議にも生死を繰り返しながらも人間の命を頂いてこの世に生まれてきました。だから、人間に生まれた本当の意味や喜びを見出さずにこの生を終わってしまうとすればあまりにも空しいと言わねばならないでしょう。

家族の死、大切な方との別れは、我が事と受け止めて、命の尊さ、人生の意味を問う契機になります。東井義雄先生は「涙と言う字はサンズイ篇に戻るという字。涙を流したら真実に戻れ、というお催促なのだ」と言われました。亡き人は縁ある人に命がけの説法をして下さっている、と思えば、流した涙も無駄ではなかった、と言える機会になるのです。

「真実に戻れ」とはどういうことでしょう？法事でよく読まれる「仏説阿弥陀経」の中に、お浄土を表す「俱会一処」という言葉がでてきます。「ともに一つの処に遇う」ということですが、先立って往かれ仏様となられた懐かしい父や母、主人や妻子に遇いたいですね。いや、それだけではない。この世で憎み、恨み合っていても、如来さまの誓願不思議に助けられ参らせて皆等しく無上の覚りを得て仏の心になる。そして一切の有情を救わんという菩薩の働きをさせて頂く喜びの世界が開ける。あらゆるものと一味に溶け合える世界が開かれると聞けば、大きな安らぎが感得されるでしょう。追悼法要を営み、お参りするのは、流した涙を無駄にせず、共に手を取り合ってお浄土が約束された人生を生き切る歩みなのですね。

☆行事ご案内

◇小杉町追悼法要　９月１７日（日）

午前１０時：物故者、午後１時：戦没者

講師：藤澤信照先生（滋賀）

主催：小杉仏教会、三全仏教婦人会、長寿会

◇『第2回ファミリーコンサート 』 10月1日(日)午後1時

稲葉梨恵様、長谷川恵理子様、星合智美様、歌とピアノの名演奏。寺で楽しむ音楽会。無料！終了後茶話会もあり。家族お揃いで！

◇第７回百五銀行門徒展』作品募集中、１０月阿倉川支店に展示、１１月善正寺報恩講にも本堂展示。多数の応募お待ちします

◇初参式の赤ちゃん幼児募集！来年4月21日(土)午後1時善正寺
三全仏婦主催、千円。地域の皆で子供の健やかな成長をお祝い。

善正寺ホームページ「三重　善正寺」で検索．1年分の寺報閲覧。
毎日更新ブログ「**住職と坊守のつれづれ日記**」好評。開設丸9年1か月で24万6千訪問、一日平均90人、悩み相談、大歓迎！即返信

◇絵手紙教室　9月12日(火)午前10時、２４回目、川崎光子先生
◇キッズサンガ９月２日（土）４時　鐘撞き夕方５時、年中無休
◇一縁会テレホン法話：０５９・３５４・１４５４お電話下さい
３分間の法話が流れます。週替わりで５か寺の僧侶・坊守が担当。

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい
◇法事場所でお困りの方；本堂使用可。寺にご相談下さい。

２９年度門信徒会費集金、皆様のご協力に厚くお礼申し上げます

今月の写真　アラカルト

坊守スケッチ　寿命の引き算

還暦を過ぎてから、誕生日になる度に、あと何年生きられるかしらと思うようになりました。年齢の足し算よりも、残された寿命の引き算を考えます。

先頃日本の平均寿命が発表され、男女共に８０歳を超えて世界第２位の長寿国になりました。特に女性は男性よりも６歳以上長生きです。定年を過ぎた世代の健康志向が高まり、スポーツジムは大盛況。それでも思わぬ病気で介護が必要になり、寝たきりになる人もいます。突然の災難や事故で命を失う場合や認知症の心配もあります。長寿になったことを素直に喜べないのが現実です。「自分の思い通りにならないのが娑婆だ」と常々お聞かせ頂いても、不安は払拭できません。

先日１０５歳でお亡くなりになった日野原重明先生は、生活習慣病予防の実践を早くから心掛けられ、７５歳以上の人を「新老人」と名付けて、老後の新しい生き方を提唱されました。「年金をもらって優雅に遊んで暮らすだけが能ではない。そんな生活もすぐに飽きて長続きしない。老いの身には必ず病気や死が迫る。大切な人との別れがあり、孤独との闘いが一番辛い。だからこそ生涯現役」と、心の持ち方を自らお示し下さいました。先生はクリスチャンですが、私達仏教徒にも老いの孤独を乗り越える心の支柱となる教えがあります。善正寺先代住職は「今聞いて　すぐに忘れる　わが身にも　お六字だけは　残る嬉しさ」という歌を残しました。『南無阿弥陀仏』のお六字こそが、あなたのいのちの故郷。先立った大切な人が「心配しなくても大丈夫。必ず遇える世界があるから」と励まし支えて下さいます。

晩年病気がちだった先代坊守が往生した年齢（７４）まで後８年、私は次の世代に何を繋いで伝えていくかが、日々問われているように思えてなりません。寿命の引き算を意識すると、自由気ままにウカウカ過ごしてしている私自身が恥ずかしく、時間がもったいないような気持ちになりました。

カンパありがとう！

赤井様、小林様、片岡様、矢田様、内田様、他よりお志、切手等頂戴しました。有難うございました。

敬弔

★西川節子様（八千代台・７月１８日ご往生、７９歳）合掌

寄稿

四日市市　駅　妙　水

一瞬の間　孫見失う　プールかな

四日市市　釋清風

ひぐらしや　生死のひと時今を鳴く

緑蔭を　選び選びて　朝散歩

☆若院夫婦の『育自な毎日』その３３

夏休みに実家の両親が住む松阪と、母方の祖父が住む伊勢へ行きました。私と二人の子供だけの日帰りミニ旅行。子供達は自分のリュックに其々荷物を詰めてくれるので遠出も楽になりました。先ずは実家へ行き、私の両親と父方の祖母に会いました。長男（５）はペラペラと喋り通し。長女（２）は少し緊張している様子でした。祖母はそんな二人のひ孫をニコニコ眺めて頭を撫でてくれていました。長男は、亡き曾祖父が国鉄時代に愛用した遺品の帽子を被らせてもらいご機嫌。カッコいいポーズをとりました。

昼食後、伊勢へ向かう電車内で元気がいいのは長男だけ。お昼寝中の長女の目をこじ開けるイタズラをします。私も疲れて睡魔に誘われました。

伊勢の母方の祖父宅では、私の従妹に会いました。彼女の１０カ月の女児とは初対面。赤ちゃんは、ペラペラ喋りドタバタ走る長男にビックリしましたが、可愛い赤ちゃん語でおしゃべり。二人は赤ちゃんを妹のように可愛がり遊んでくれました。私も少し前の子育てを懐かしく思い出しました。

祖父は庭に自らミニ庭園を造り、その器用さと根気に驚きました。祖父母は、いつも私を暖かく見守ってくれて、会うとほっとする存在です。これからも長生きして、ひ孫たちの成長も見守って欲しいと思いました。（若坊守）

お知らせ＆募集

◇「第二回ファミリーコンサート」十月一日（日）午後一時・善正寺にて稲葉梨恵様、長谷川恵理子様、星合智美様の歌とピアノ、入場無料、終了後茶話会、ご家族揃ってご参加下さい。

◇第７回百五銀行門徒展、十月一カ月間百五銀行阿倉川支店ロビーで開催。皆様の作品を広く募集します。十一月二、三日の報恩講でも本堂に展示。どしどしご応募下さい。

◇初参式の赤ちゃんと幼児募集！来年４月２１日（土）１時、三全仏婦主催。会費千円、地域の皆さんと子供の健やかな成長をお祝いしましょう

善正寺・今年後半の主な行事

※９月１７日（日）午前・午後『小杉町追悼法要』（藤澤信照先生・滋賀）

※１１月２日午後と夜・３日午前『報恩講』（藤大慶先生・京都府）

※１１月２３日午前『秋勧進』

※１２月２日（土）午前１０時半『お内仏報恩講』庫裏。昼食有

ホットニュース

※８／１３盂蘭盆会法要に、多数の皆様のご参詣を賜り感謝申し上げます。

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第２８５号をお届けします。◇猛暑が続く中、局地的豪雨の災害が各地で発生、心よりお見舞い申し上げます。◇仏様とは「他人事という世界を持たぬお方」と学びました。「かくありたい」と願いつつ歩みたい。

昨年から盂蘭盆会法要をお勤めしています。今年も大勢の皆様にお参り頂き有難とうございました。大切な人の死が機縁となってお寺まで足を運んで下さるお気持ちに感謝いたします。お寺は全ての人に等しく門戸を開いていますが、永代経や報恩講という昔からの行事には、新しい方々にはお参りし辛いという声がありました。自分の身近な人のご縁ならばそれは別問題。そこで寺側から参加し易いお参り形態を提案しました。ところで東京に「まちのお寺の学校」という現代版寺小屋があります。元映像作家の松村和順氏が中心になって東京15ケ寺で年間6千人以上が利用し活動しています。都会の心身共に疲れた人々が、夜間や休日に自分の心を整える為の有意義な時間を寺で過ごします。かつての松村氏は、取材対象の仏像しか目に入らず、お願い事をする時に手を合わす程度でした。しかし熱意ある僧侶に出会うう中に「仏教とは人の心に焦点を当て、人がイキイキと生きる為の教えだ」と気付きました。「人間的成長の場」を提供してくれるのがお寺だと納得しました。お寺は地域の繁がりと学びの場、よき人との出会いの場、死と向き合う場、自分を原点に戻す場、それが「まちのお寺の学校」の役目です。私もこの考えに大賛成！9月17日は小形所拳げての追悼法要。亡きご先祖から私達の将来を共に考え学ぶ機会にしましょう。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。合掌

平成二十九年九月　善正寺方守拝